

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農山村振興費

事業名 鳥獣被害防止対策県活動事業費

(この事業に対するご質・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農村振興課 鳥獣害対策室 鳥獣害対策係

電話番号：058-272-1111 (内 3176)

E-mail：c11427@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 23,000 千円 (前年度予算額：23,000 円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附 金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	23,000	23,000	0	0	0	0	0	0	0
要求額	23,000	23,000	0	0	0	0	0	0	0
決定額	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

平成30年度の県内における野生鳥獣による農作物被害額は約2.3億円と、前年度に比べ減少しているが、ニホンザル、カラス等、防護柵の設置による対策が困難な獣種の被害が依然として多く、効果的な対策の検証が課題である。特に、ニホンザル、カラス等の野生鳥獣は県内全域を生息域としており、広域的な視点での対策が必要である。

そのため、県が近年鳥獣害対策への応用が進んでいるドローン等を活用し、生息調査・追い払い・捕獲まで一体となった対策について、モデル地区を設定し検証する。

また、カワウについては市町村をまたぐ広域的な範囲で行動を行うことから、市町村単独の取組みではなく、県全体の各河川における飛来数調査や生息状況調査といった広域的な取組みを実施する。

(2) 事業内容

<ニホンザル・カラス>

①生息状況調査の実施

ニホンザル等を対象に、ドローン等を活用した赤外線カメラによる生息調査を実施する。

②効果的な被害防止対策実証

ニホンザル、カラス等を対象に、ドローンを活用した音、光等による追い払い及び大型捕獲檻を活用した捕獲を一体的に実施し、効果を検証する。

③ドローン操作技術習得研修会の開催

ドローン技術習得のための研修会を開催する。

<カワウ>

①岐阜県カワウ被害対策研修会

「岐阜県カワウ被害対策指針」の改訂内容および有効な対策手法を漁業者に周知するため、研修会を実施する。

②大規模コロニーカワウ捕獲

大規模なカワウ繁殖地においてシャープシューティング※体制による

捕獲を行う。

※専門的・職能的捕獲技術者の従事を前提とする銃器による捕獲体制の総称。カワウでは繁殖期の営巣地において、拡散を防ぎながら選択的に成鳥を精密狙撃する戦略的かつ科学的な高効率捕獲を実施する体制。

③カワウ河川飛来数調査

県内河川におけるカワウの飛来数を調査する。

④コロニーの生息動向調査

県内コロニーの生息状況について、継続的に観測していく。

(3) 県負担・補助率の考え方

無

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額（千円）	事業内容の詳細
報償費	2,392	講師謝礼
旅費	1,181	講師旅費、職員業務旅費
役務費	42	カワウ処分費
消耗品費	568	
委託費	18,817	ドローンによる調査・追い払い・捕獲 カワウ生息に関する調査・捕獲
合計	23,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ぎふ農業・農村基本計画
- ・岐阜県鳥獣被害対策本部「鳥獣害対策・ジビエ長期戦略」（H29～33）
- ・岐阜県カワウ被害対策指針（平成28年3月）

(2) 国・他県の状況

(3) 後年度の財政負担

令和2年度までの進捗状況により継続等について必要な検討を実施

(4) 事業主体及びその妥当性

県下全域に拡大している野生鳥獣による農作物被害を軽減するため、県が対策を主導する必要がある。

事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

<カラス・ニホンザル>

野性鳥獣への効果的な対策を実証し、被害集落へ実証対策を普及させることで、農作物被害の軽減を図る。

<カワウ>

大規模コロニーでのシャープシューティングを実施するとともに、県内各地域での捕獲・追い払いにより令和3年の「被害を与えるカワウの羽数」を現状の半分に削減する。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値	目標	達成率
・実証対策の実施地区数の増加	0 (R1)	2 (R2)		2 (R2)	10 (R4)	
カワウの生息羽数	1,705 (H27)	2,333 (H28)	1,544 (H29)	2,364 (R1)	1,100 (R3)	47%

○指標を設定することができない場合の理由

(前年度の取組)

<カラス・ニホンザル>

各1地区ずつの合計2地区において、ドローンによる生息調査・追い払いを実証した。

<カワウ>

・コロニーカワウ捕獲実証業務

コロニーにおけるシャープシューティング体制による捕獲を行った。

・カワウ河川飛来数調査

県内河川のカワウの飛来数調査を行った。

- ・ 県内大規模コロニーの生息状況調査
4箇所のコロニーの生息動向について調査を実施した。

(前年度の成果)

<カラス・ニホンザル>

ドローンを使った生息状況調査及び追い払いのことが実証できた。

<カワウ>

大規模コロニー2カ所（鷺田橋下流、千本松原）にてシャープシューティング体制にて捕獲を実施することによって、県内のカワウ生息羽数を抑制することができた。

また、大規模コロニー4カ所の生息状況および県内河川に飛来するカワウの飛来数を調査することにより、県内カワウの生息状況を把握し、岐阜県カワウ被害対策指針の改訂にむけた情報を収集、整理した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

- ・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か）
○：必要性が高い △：必要性が低い

(評価)

○

<カラス・ニホンザル>

野生鳥獣による被害軽減に向け、新たな技術を活用した鳥獣被害対策につながるため、事業の必要性が高い

<カワウ>

カワウの分布域が拡大するとともに、漁業被害が深刻化しており、駆除対策をとる必要がある。

- ・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか）
○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている
△：まだ期待どおりの成果が得られていない

(評価)

○

<カラス・ニホンザル>

実証として、2地区でドローンを活用した生息状況調査及び追い払いが実証できた。

<カワウ>

様々な対策を講じてきたものの、分布域の拡大により生息羽数は増加しつつあり、引き続き対策が必要な状況である。

- ・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか）
○：効率化は図られている △：向上の余地がある

(評価) ○	<p><カラス・ニホンザル></p> <p>ドローンを活用した野生鳥獣の生息調査等を、県自らは実施できないことから、過去に実施したことのある事業者へ委託することにより、効率的な実施方法となっている。</p> <p><カワウ></p> <p>県内最大級のカワウ繁殖地2カ所において、県が自ら実施できないカワウの捕獲（シャープシューティング）を過去に実施したことのある事業者へ委託することにより、効率的な実施方法となっている。</p>
-----------	---

(今後の課題)

<p><カラス・ニホンザル></p> <p>被害集落での被害状況等の把握と、加害獣種ごとの効果的な追い払い・捕獲等防除技術の確立。</p> <p><カワウ></p> <p>カワウ駆除対策に係る関係機関（漁業協同組合、市町村及び県等）の連絡調整体制を整備し、カワウの捕獲及び追い払い等の情報について情報共有を行う。</p>
--

(次年度の方向性)

<p><カラス・ニホンザル></p> <p>被害集落での効果的な防除技術の効果検証を実施するとともに、効果が見込まれる技術について、現地での普及を図る。</p> <p><カワウ></p> <p>カワウの分布域が拡大するとともに、漁業被害が深刻化しているため、事業を継続する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	該当なし
組み合わせて実施する理由や期待する効果 など	該当なし